

哲学委員会（第24期・第4回）議事要旨

日 時：平成30年10月4日（木）16:30-18:00

場 所：日本学術会議 5-C(1)会議室

出席者：戸田山和久（委員長）、小林傳司（副委員長）、岡田真水（幹事）、小田部胤久（幹事）
河野哲也、島菌進、野家啓一、藤原聖子（第一部副部長）

欠席者：小島毅、田坂さつき、佐野みどり

議題・議事要旨

1. 第一部会・総会の審議報告

第一部拡大役員会（第24期第3・4回）（平成30年5月31日・8月30日）、第一部会（第24期第2回、第3回）（平成30年7月29-30日、10月3-4日）、総会（第24期第3回）（30年10月3-4日）の審議の報告がなされた。主な点は、以下の通りである。

①第一部の動向

『年次報告』pp.15-16 にもとづき、戸田山委員長から、人文社会科学の振興・ファクトブック作成についての方針が承認されたことが報告された。藤原副部長からは・夏季部会に関してはニューズレターに載っているので参照されたい・ファクトブックに関しては人文科学系の基礎データ収集から始める・人文学政策の進行が大変早いので、先を見越した意見発出が求められると発言があった。

②総会報告

会長から活動報告と次の半年に取り組む課題について発表があった：対話の推進、地方学術会議を推進、アジア学術会議（12月）、来年4月学術会議発足70周年を盛り立てる。つづいて副会長報告があった。SDGsと学術に関するHPが開設され、アクセス数も順調に伸びている。2日目午後の自由討議では、これまでになかったような大変活発な議論のやりとりがあった。（戸田山委員長）

日本の展望2020を作成することが決まった。今回は分野別ではなく全体で作る。総合的に日本の未来像を描き、ビジョンを示すことを示す。マスタープランについて考える。（藤原副部長）

産業界と学術界の対話が始まる。ペーパーがでる予定である。（小林副委員長）

2. 公開シンポジウムについて

11月23日の哲学委員会主催公開シンポジウムについて、タイムテーブル等最終確認された。

3. 各分科会の報告

- ・芸術と文化環境分科会からは、芸術の線引き、大衆文化との線引き／芸術の価値づけ／芸術と観光／芸術と修復／アーカイブと著作権／芸術と教育の6つのテーマのもと活動し、芸術と著作権、アーカイブに関してのフォーラムを10月に計画していることが小田部幹事より報告された
- ・古典精神と未来社会分科会からは、6月、岩波書店〈知の航海〉シリーズから『知の古典は誘惑する』を刊行したこと、それに関連して11月10-11日公開シンポジウムと「高校生と研究者の交流会」を開催する予定であることが岡田幹事から報告された。
- ・いのちと心を考える分科会からは、8月22日棚田次郎（東京財団研究員）を招いて講演とディスカッションを行ったこと、日本倫理学会ワークショップ 2018年10月5日（金）日本生命倫理学会大会シンポジウム 2018年12月9日（日）を行う予定であることが島菌委員から報告がされた。
- ・哲学・倫理・宗教教育分科会からは、考える力・道徳・多文化的教育について活動する。11月10日学術会議でサイエンス・アゴラ「考える力とは何か—思考の教育における哲学系諸学の役割」を行う予定であることが河野委員長から報告された。

4. その他

- ・野家委員および河野委員から2023年WCP東京招致活動の報告があり、最終的にオーストラリアに決定したこと、運営委員として、納富信留氏が当選したことが伝えられた。

以上